

友の家

太田 辨次郎

ひさびさに會はまくほりて友の家につきし夜
ふけを雨となりたり

家につきて安居やすかするころ庭つ木のもろ葉たゝ
きて雨ふりいでぬ

灯のもとにひさびさ會ひし友と居つゝ言ことにい
ださぬしたしさもてり

ひさびさの友がおもわにむかひつゝ火鉢かこ
みてさむ夜ふけたり

雨やみて夜風をりくわたるらし木の葉のし
づくふりおつる音す

裏畑にいはりに行くと戸をあけつさしいる月
光に足元あかるし

近き家に水くむ人のしはぶきをきつゝいま
だねむりにつかす

ぶりき屋の爲事の音すこの朝おそしと思ひま
だ床にあり

戸の間もる日かげをまもり床ぬちにぬくみた
もちてわが目ざめをり

庭すみにひろがり生ふるさぼてんのふときを
見つゝ縁に齒みかく